

福岡県における近年の被害概要 (H29～R3)

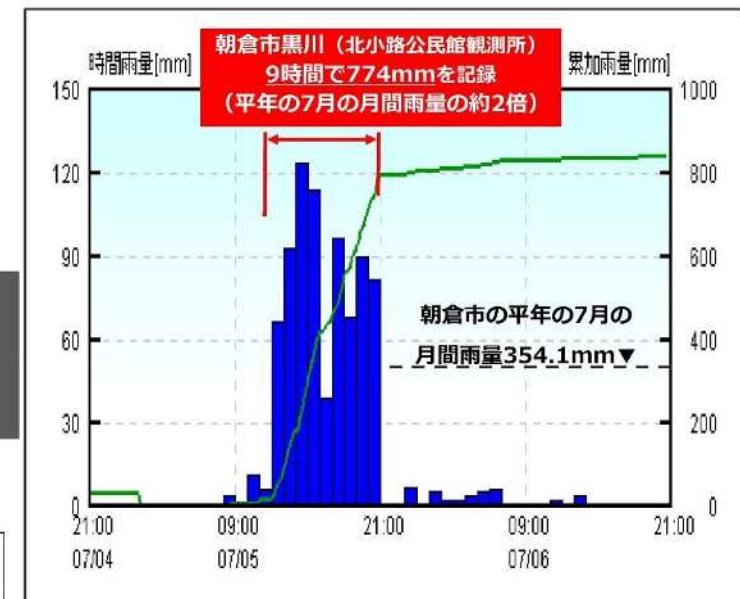
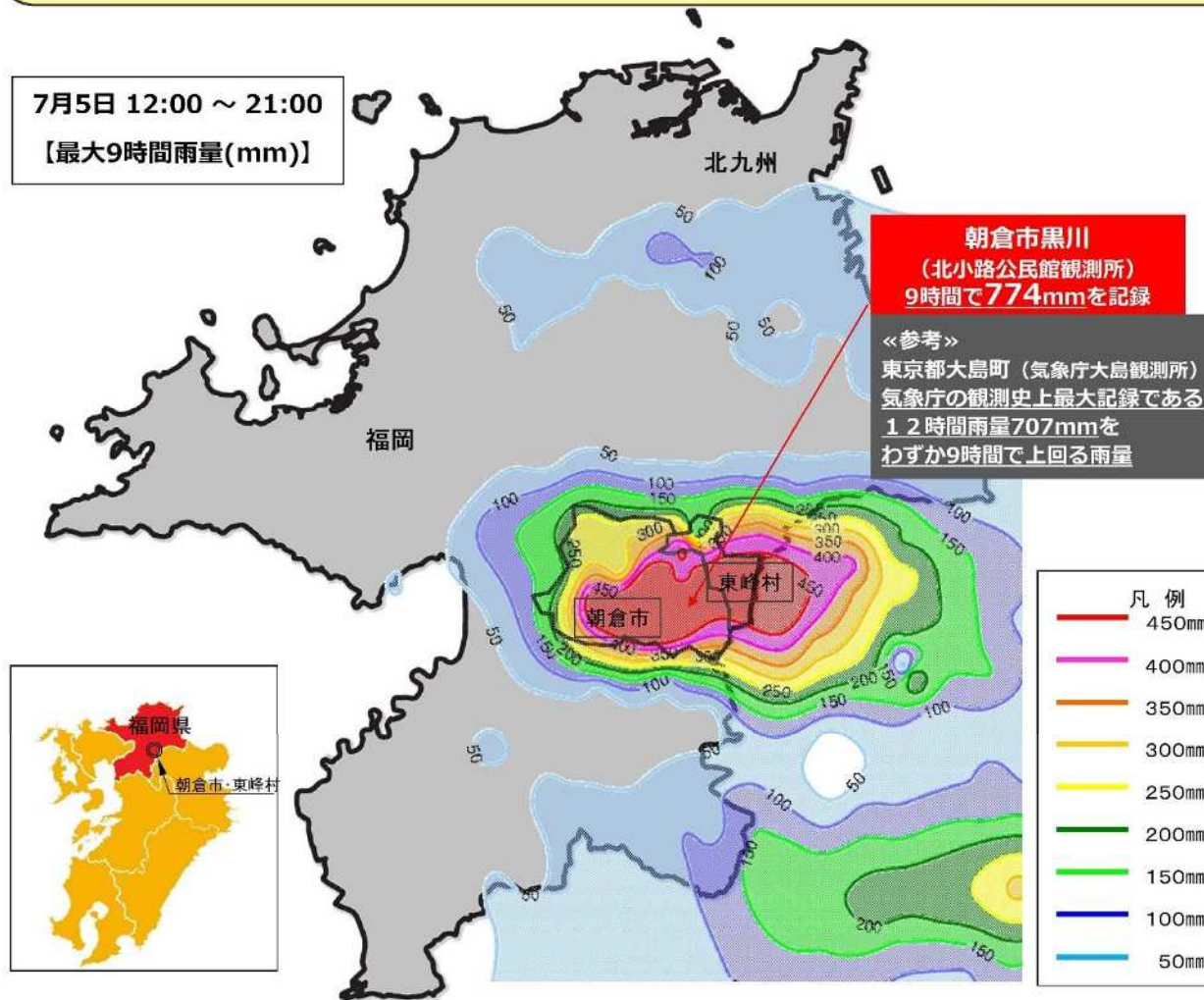
○平成29年7月九州北部豪雨

○ 福岡県の朝倉市、東峰村を中心としたエリアにおいて、わずか9時間で774mmという、短時間に記録的豪雨を観測

＜福岡県観測：朝倉市黒川（北小路公民館観測所）7月5日12時から21時＞

⇒ 観測史上最大の記録である12時間雨量707mmを上回る雨量＜気象庁観測：東京都（大島観測所）平成25年10月16日＞

⇒ 朝倉市の7月平均月間雨量の2倍を超える雨量



	今回の豪雨	九州北部豪雨※ （平成24年7月）
雨 量	774mm(9hr)	681mm(72hr)
平 均 雨 量	86mm/h	9mm/h
最大時間雨量	124mm/h	94mm/h

※ H24.7.11~14 八女市黒木観測所

被災の特徴

○平成29年7月5日昼頃から局地的に激しい雨が降り、特に福岡県筑後北部から大分県西部にかけて、「線状降水帯」が形成されて猛烈な雨が降り続き、九州で初めてとなる「大雨特別警報」が気象庁から発表された。

○気象庁における当時の日本の観測史上最大の記録である12時間雨量707mmを、わずか9時間で超える774mm(朝倉市における平年の7月の月間雨量の2倍を超える量、福岡県の年間雨量の約半分)という記録的豪雨により、朝倉市、東峰村を中心とした山間部で多数の山腹崩壊が発生し、河川の氾濫に加えて、大量の土砂・流木が下流域まで広範囲に流れ込む土砂洪水氾濫が発生し、これまでに例のない甚大な被害が発生した。

○道路、橋梁、河川等の公共土木施設、農作物や農地・農業用施設、林業用施設等が被災し、被害総額は、本県における戦後最大規模の1,941億円となった。

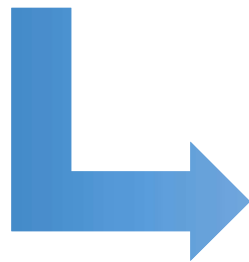
※公共土木施設被害額は、約1,100億円。

○平成29年7月九州北部豪雨（復旧状況）

被災直後



白木谷川・赤谷川



R3.11状況



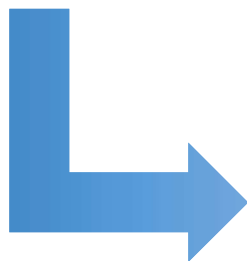
○平成29年7月九州北部豪雨（復旧状況）

被災直後



北川

北川



R3.11状況



北川

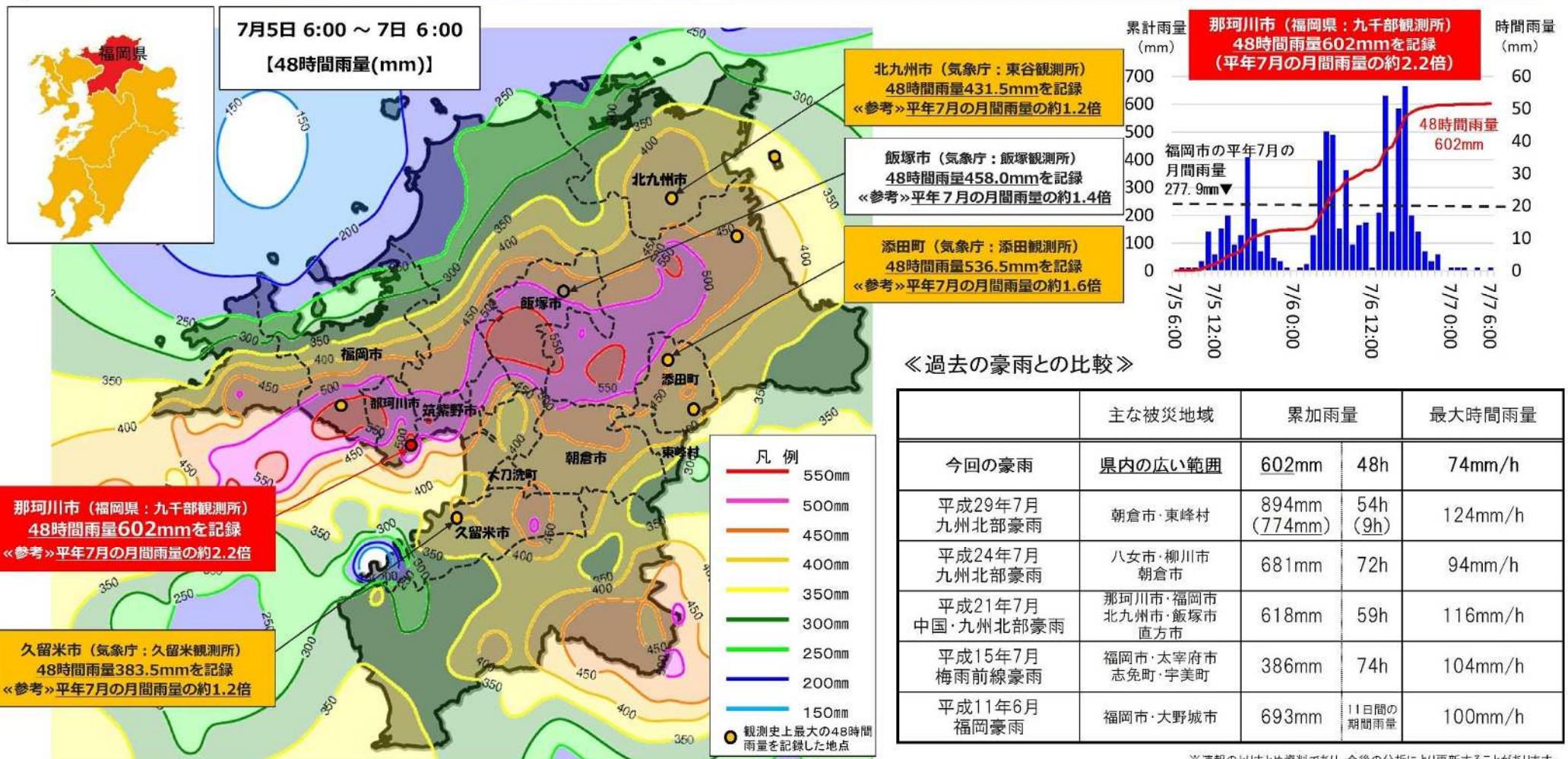
○福岡県における近年の豪雨・大雨被害

県内において5年連続で「大雨特別警報」(気象庁)が発令

	主な被災地域	累加雨量		最大時間雨量	被災の特徴
平成29年7月 九州北部豪雨	朝倉市・東峰村	894mm (774mm)	54h (9h)	124mm/h	・当時の日本の観測史上最大の記録である12時間雨量707mmをわずか9時間で超える774mm(福岡県の年間雨量の約半分)という記録的豪雨。 ・被害総額は本県における戦後最大規模の1,941億円。
平成30年7月豪雨	県内の広い範囲	602mm	48h	74mm/h	・全60市町村に大雨・洪水警報、そのうち8割以上の市町村で大雨特別警報が発表された。 ・北九州市、久留米市など県内20観測地点のうち、7地点で48時間雨量の観測史上最大を記録。 ・県内49の河川で浸水被害が発生。
令和元年8月の大雨	八女市・久留米市 朝倉市	422mm (235mm)	24h (6h)	87mm/h	・気象庁の耳納山観測所(久留米)で3時間、6時間雨量が観測史上最大を記録。 ・八女市、久留米市など5観測所で8月における24時間雨量の過去最大を観測。 ・久留米市、朝倉市、八女市など15河川で浸水被害が発生。
令和2年7月豪雨	大牟田市・久留米市	727mm	48h	105mm/h	・大牟田市では、48時間で7月の平均雨量の約2倍となる727mmの雨を観測。 ・県内の5観測所で48時間雨量の過去最大を記録。 ・大牟田市、久留米市、朝倉市などの37河川で浸水被害が発生。
令和3年8月の大雨	筑後地域・福岡地域南部 筑豊地域南部	718.5mm	72h	72mm/h	・久留米市では、72時間で8月の平均雨量の約3倍となる718.5mmの雨を観測。 ・県内の10観測所で72時間雨量の過去最大を記録。 ・久留米市などの19河川で浸水被害が発生。

○平成30年7月豪雨

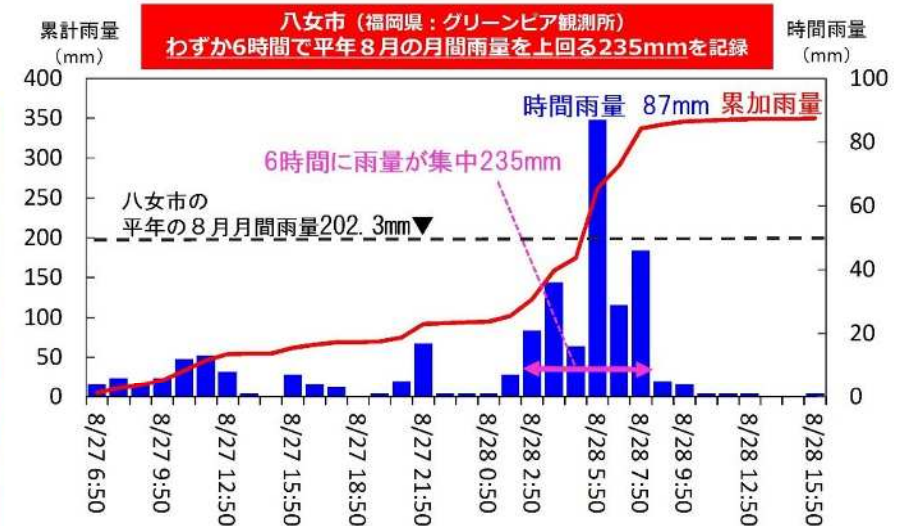
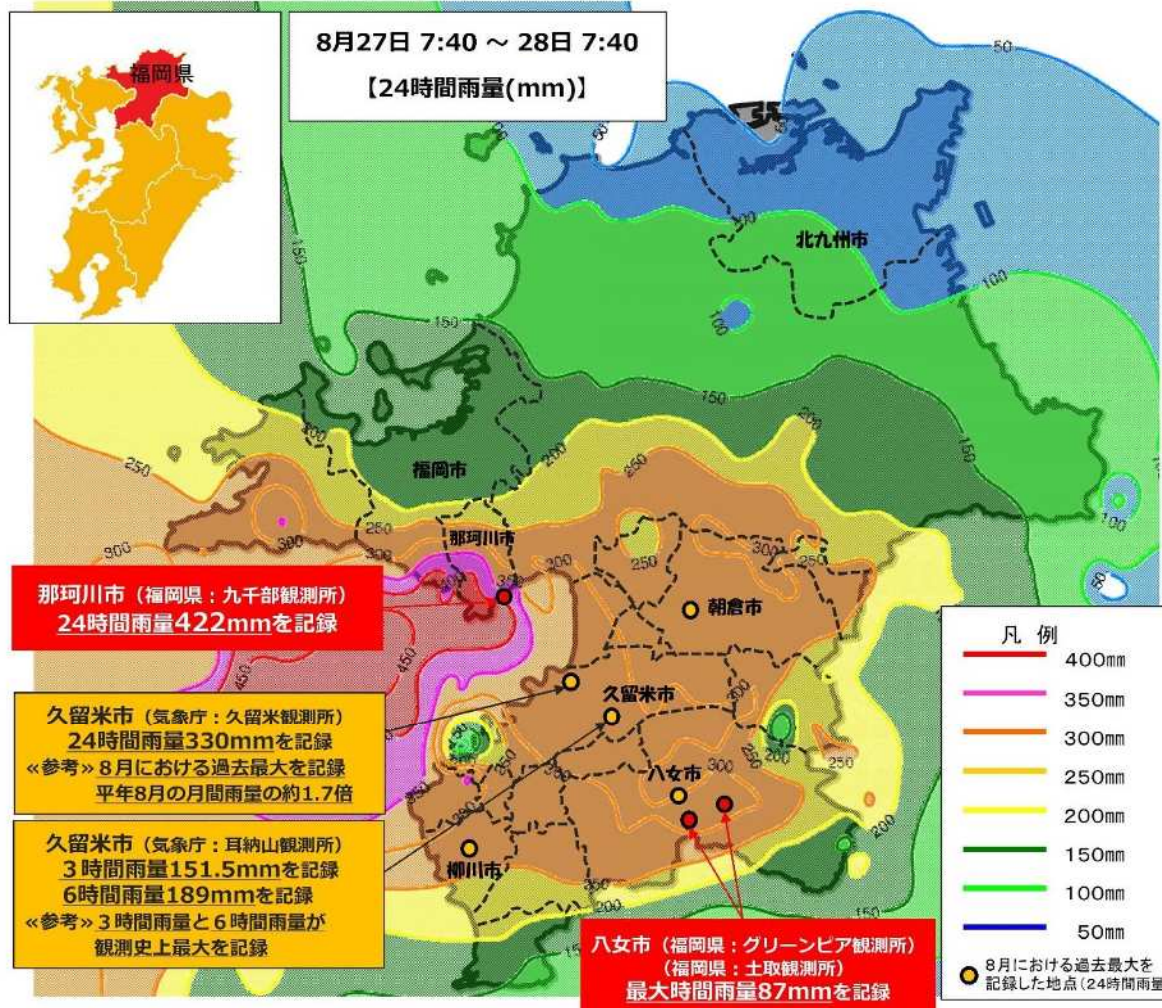
- 7月5日朝から7日朝にかけて、県内の広い範囲で記録的豪雨が降り続いた
⇒ 福岡県に「50年に1度」の異常気象を基準とする「大雨特別警報」を発表(気象庁)
- 那珂川市で602mmを観測したのをはじめ、北九州市、久留米市など気象庁の県内20観測地点のうち、7地点で48時間雨量の観測史上最大を記録
⇒ 多くの地域で、平年7月の月間雨量を上回る雨量を確認



※速報のとりまとめ資料であり、今後の分析により更新することがあります。

○令和元年8月の大雨

- 福岡県では、3年連続3回目となる「大雨特別警報」が発表(気象庁)され、記録的な大雨を観測
- 那珂川市で422mmを観測したのをはじめ、八女市、久留米市など5観測所(気象庁)で8月における24時間雨量の過去最大を観測
- ⇒ 八女市で時間最大雨量87mmを観測、久留米市では3時間雨量と6時間雨量の観測史上最大を観測



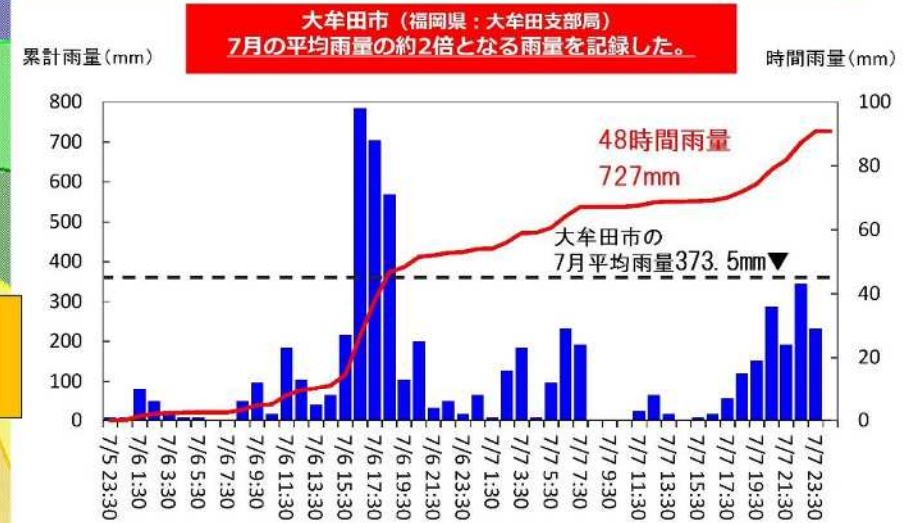
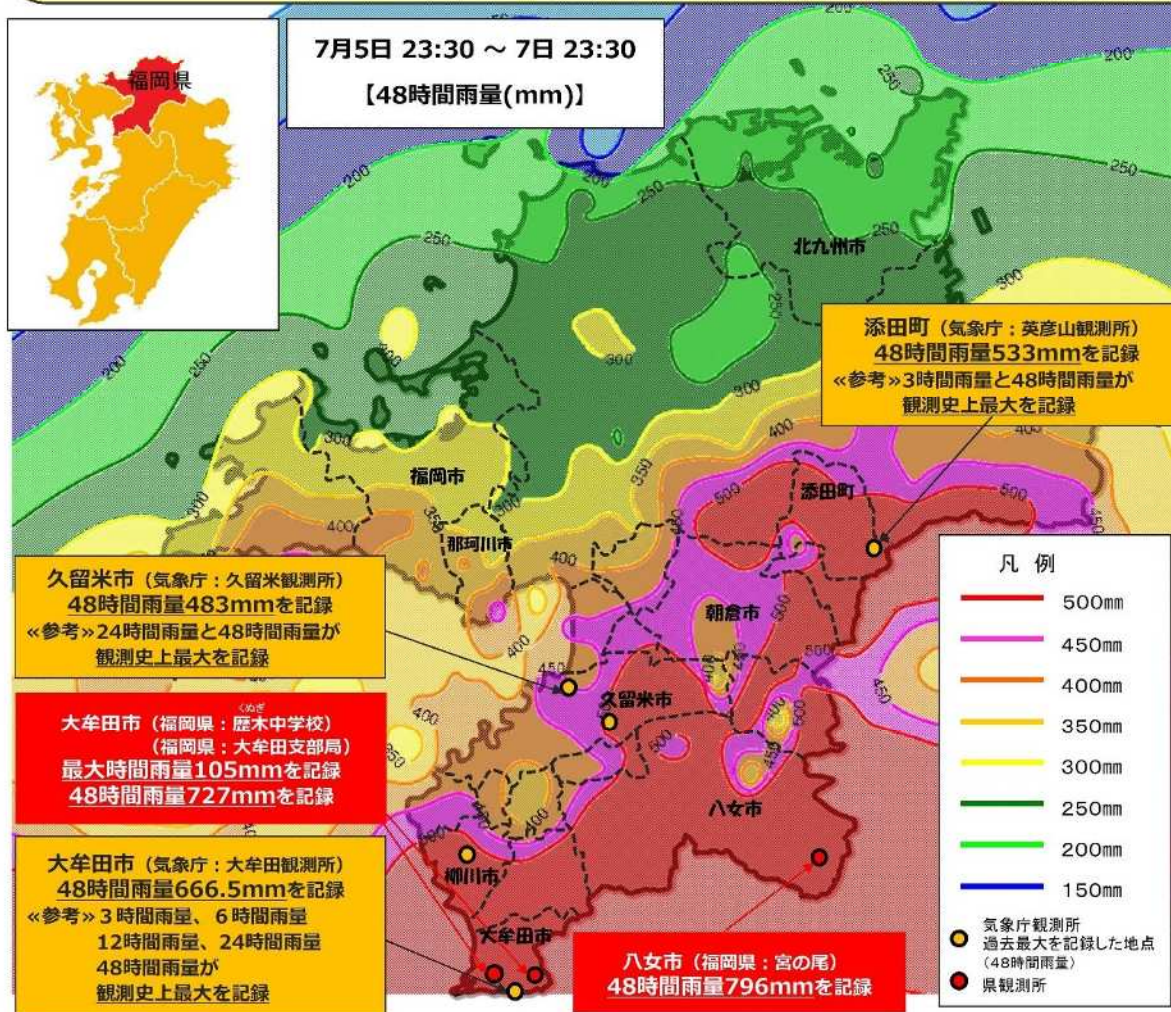
«過去の豪雨との比較»

	主な被災地域	累加雨量	最大時間雨量
今回の大雨	八女市・久留米市 朝倉市	422mm (235mm)	24h (6h)
令和元年7月の大雨	久留米市・小郡市 大刀洗町	351mm (260mm)	24h (5h)
平成30年7月豪雨	県内の広い範囲	602mm	48h
平成29年7月 九州北部豪雨	朝倉市・東峰村	894mm (774mm)	54h (9h)
平成24年7月 九州北部豪雨	八女市・柳川市 朝倉市	681mm	72h

※速報のとおりとめ資料であり、今後の分析により更新することがあります。

○令和2年7月豪雨

- 福岡県では、4年連続となる「大雨特別警報」(気象庁)が発表され、筑後地域から筑豊地域南部で記録的な大雨を観測
- 大牟田市では、48時間で7月の平均雨量の約2倍となる727mmの雨を観測
- 大牟田市、久留米市、添田町など5観測所(気象庁)で48時間雨量の過去最大を観測



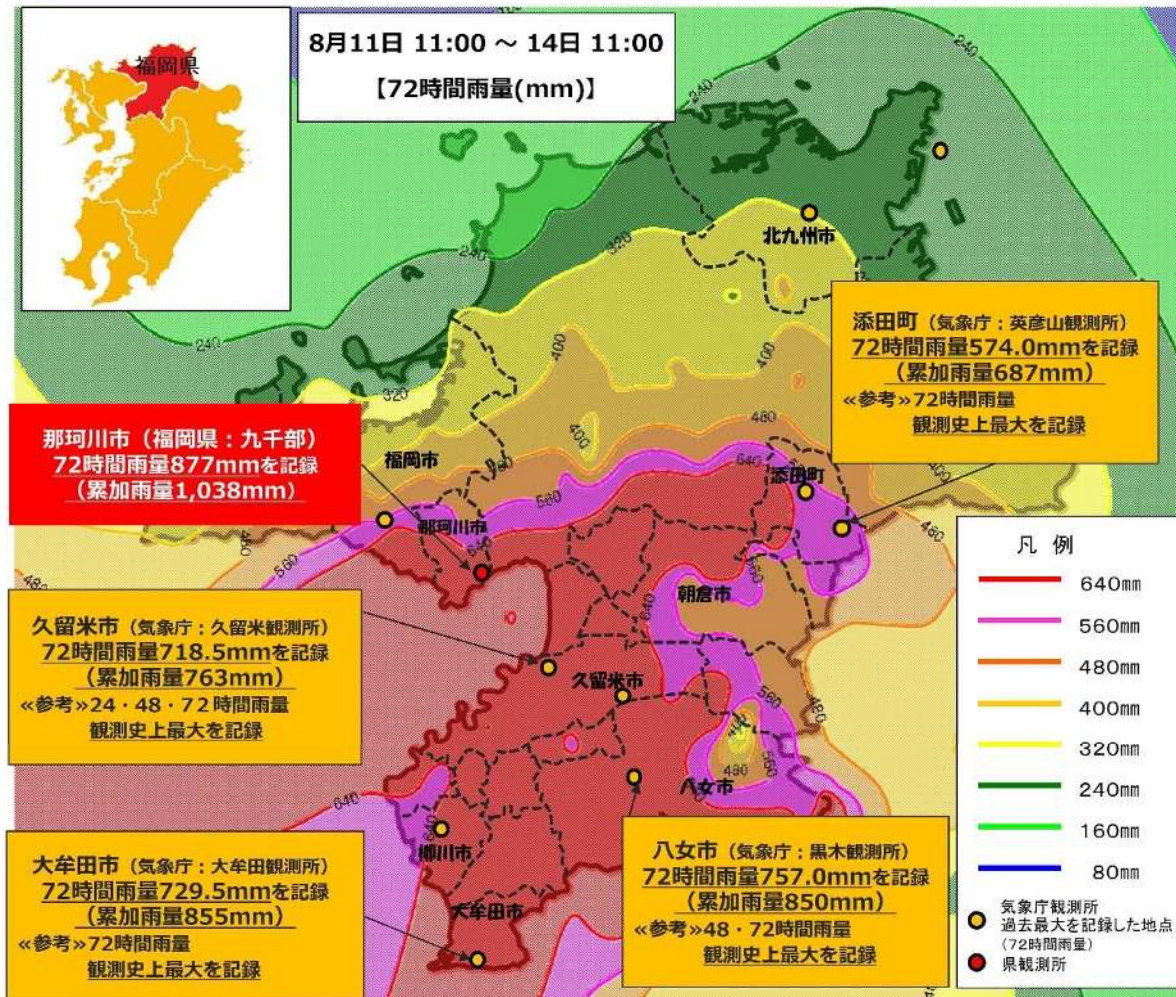
《過去の豪雨との比較》

	主な被災地域	累加雨量		最大時間雨量
今回の大雨	大牟田市・久留米市	727mm	48h	105mm/h
令和元年8月の大雨	八女市・久留米市 朝倉市	422mm (235mm)	24h (6h)	87mm/h
令和元年7月の大雨	久留米市	351mm (260mm)	24h (5h)	95mm/h
平成30年7月豪雨	県内の広い範囲	602mm	48h	74mm/h
平成29年7月 九州北部豪雨	朝倉市・東峰村	894mm (774mm)	54h (9h)	124mm/h

※7/9時点のとりまとめ資料であり、今後の分析により更新することがあります。

○令和3年8月の大雨

- 福岡県では、5年連続となる「大雨特別警報」(気象庁)が発表され、筑後地域や福岡地域南部、筑豊地域南部で記録的な雨を観測
- 久留米市では、72時間で8月の平均雨量の約3倍となる718.5mmの雨を観測
- 大牟田市、久留米市、八女市、添田町など県内10観測所(気象庁)で72時間雨量の過去最大を観測



	主な被災地域	雨量		最大時間雨量
今回の大雨	筑後地域・福岡地域南部・筑豊地域南部	718.5mm	72h	72mm/h
令和2年7月豪雨	大牟田市・久留米市	727mm	48h	105mm/h
令和元年8月の大雨	八女市・久留米市 朝倉市	422mm (235mm)	24h (6h)	87mm/h
平成30年7月豪雨	県内の広い範囲	602mm	48h	74mm/h
平成29年7月九州北部豪雨	朝倉市・東峰村	894mm (774mm)	54h (9h)	124mm/h

※速報値であり、今後変更となる場合があります。 ※累加雨量は8月11日8時～15日7時までの集計

災害復旧における福岡県の取り組み



○災害に対する備え(協定)

○災害に対する備え(研修等の市町村支援)

○大規模災害時の市町村支援

○災害査定時の簡素化と市町村支援

○市町村支援の成果と課題

風水害協定

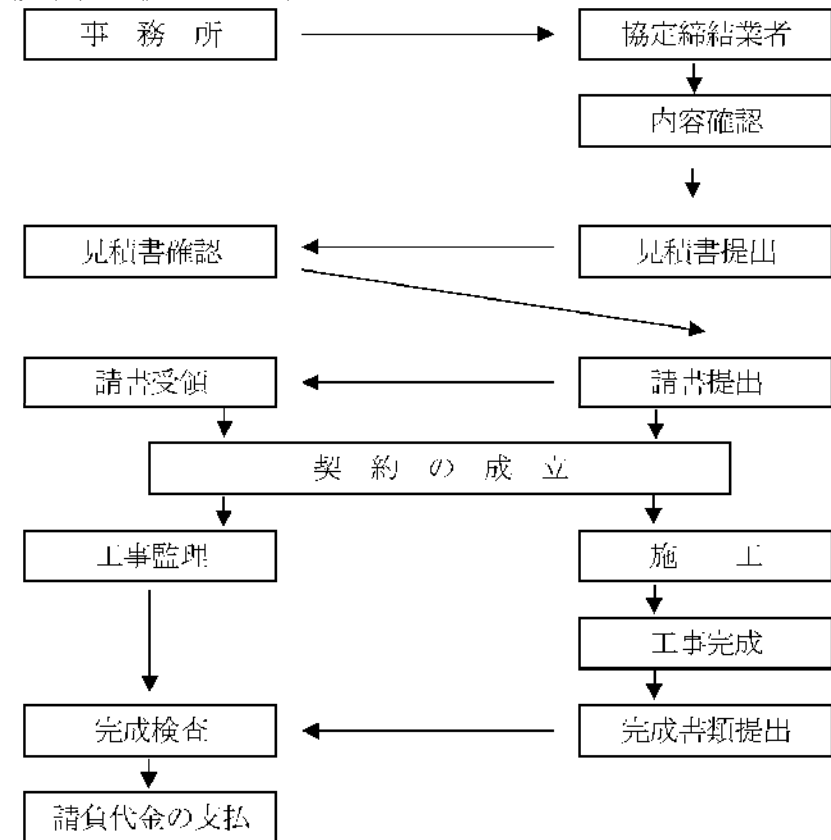
○福岡県では、各年度ごとに施工業者と「**風水災害時の緊急対策工事等に関する協定**」を締結している。

(目的)

風水災害時において、福岡県が管理する公共土木施設の機能を保持し、または速やかな復旧を図るために必要な緊急対策工事を迅速かつ適切に実施するとともに、地域防災に資する自主活動を推進すること

※管理者の管理する公共土木施設の巡視は必須。
巡視結果報告は11月と翌年5月の2回行うことを義務付け。また、巡視において施設に異常があった場合もその都度管理者へ報告。

(災害発生後のフロー)



○災害に対する備え(協定)

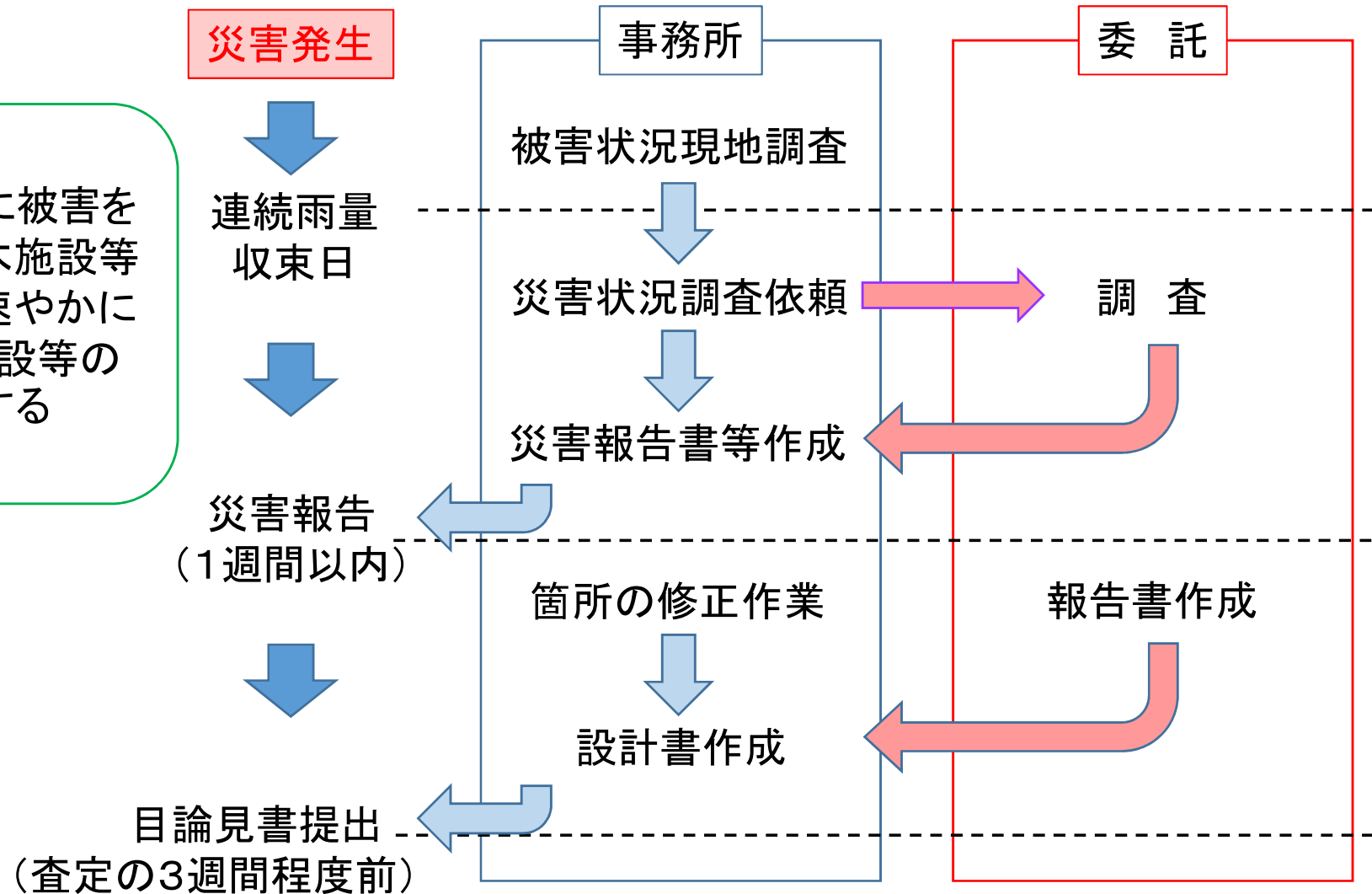
大規模災害時における災害応急対策業務の

支援に関する協定 (一社)福岡県測量設計コンサルタント協会

(災害復旧支援業務)

目的

大規模災害時に被害を受けた公共土木施設等の被害状況を速やかに把握し、被災施設等の早期復旧に資する



大規模災害時における災害応急対策業務の 支援に関する協定

(一社)福錐会

(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会九州支部

(道路法面、コンクリート橋など専門的分野について)

目的

大規模災害時において被災を受けた道路法面、コンクリート橋などの被害状況を速やかに把握し、被災施設等の早期復旧に資する

協定により協会が行う業務

大規模災害発生

被災箇所の状況把握

被災状況を専門的な知見から判断

応急復旧工法の検討、設計
応急復旧工事の実施

本復旧工法の検討、設計
本復旧工事の実施

研修等の開催

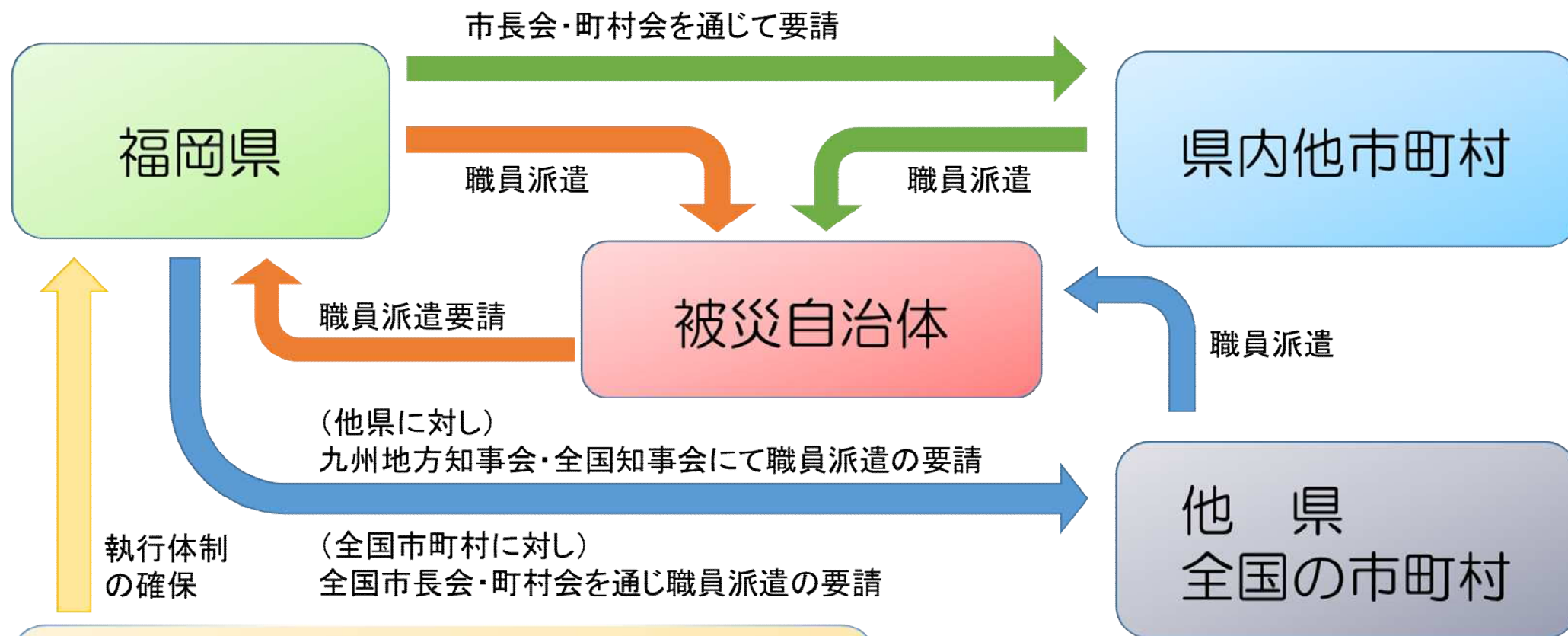
○出先県土整備事務所・各市町村に向けた研修・講習会等を行っている。

研修年間スケジュール

4 月	災害復旧実務講習会(第1回)
	→出水期に向け、査定の知識・注意点等を中心に講義 <u>査定官(整備局)、立会官を講師として招き、講義していただいている</u>
5 月	災害復旧測量設計講習会
	→建設コンサルタント向け講習会
	ブロック講習会
	→査定の基礎知識・注意点等を中心に地区(5ブロック)ごとに分けて講義
	災害復旧実務研修
	→模擬査定ありの実戦的な研修 <u>査定官(整備局)を講師として招き、模擬査定を行っていただいている</u>
6月～	出水期
	災害査定が実施される
12 月	災害復旧実務講習会(第2回)
	→本年度に行われた災害査定結果・傾向・注意点等を講義 <u>査定官(整備局)を講師として招き、講義していただいている</u>

○大規模災害時の市町村支援

九州北部豪雨における福岡県の市町村支援について



- 各所属間の人員調整
- 東北3県及び熊本県に派遣していた職員の復帰
- 採用試験の追加実施
- (退職者数を勘案した) 前倒し採用

平成29年7月

発災

延べ15人の土木技術職員を朝倉市・東峰村に派遣(短期)
(公共土木施設の被害調査支援)

平成29年9月

県内及び九州・山口各県の市町村からは43名を短期派遣
※業種は土木のほかに農業土木、林業及び事務職員を含む

令和2年4月

朝倉市・東峰村それぞれ2名ずつ派遣(長期)

現在

朝倉市に2名、東峰村に1名を派遣(長期)
(その他、令和2年災対応としてその他市町村に1名派遣)

災害査定の効率化(簡素化)

机上査定限度額の
引き上げ

設計図書の簡素化

支援

机上査定件数が増



写真の重要度がUP



研修会等で、**写真の撮り方・ポイント**
を重点的に講義



図面簡素化を行うと、査定時から
工種の追加があるケースが多い

= 重変件数の増



簡素化を行う場合、工種については
できるだけ**漏れがないように指導**

支援

実態：査定までに詳細に設計を行い、
簡素化を行わないケースが多い

成果

- ・ 講習会・研修を行うことで、査定に慣れていない市町村においても、災害が発生した場合に最低限の対応が可能となっている。
- ・ H29以前はほぼ災害経験がなかった朝倉市・東峰村において、派遣職員（県・他の自治体）の活躍もあり無事にH29災害査定を完了できた。
- ・ H29以降も災害が発生したが、H29災の経験をもとに市町村職員のレベルも上がり効率的に査定を行えた。
- ・ 工事発注・工事監督業務についても、市町村職員・派遣職員一丸となり順調に行えている。
- ・ 県管轄の災害事業と市町村管轄の災害事業との調整が図られ、スムーズに事業に取り組めた。

課題

- ・ 支援する立場である県も人員が不足しており負担大。
- ・ 講習会・研修により最低限の対応ができるようになったものの、査定経験の豊富な市町村と経験の少ない市町村でのレベル差が大きい。
- ・ 災害査定に精通した市町村職員を育成しても、数年後人事異動でリセットされてしまう。